

[最新版\(英語版\)はこちら](#)

最終改訂年月 : 15 March 2004

背景: テオフィリンは強度の脳血管収縮を引き起こすため、脳の非虚血領域での血流低下および虚血領域周辺の側副血流増加を招く。注: 本レビューは、積極的な研究が行われていない領域を網羅している。適切な試験が終了するなど、関連する情報を入手した際に更新する。

目的: 本レビューの目的は、急性虚血性脳卒中が確定診断または疑診された患者を対象として、テオフィリンとその類似薬、アミノフィリン、カフェインの有効性を評価することであった。

検索戦略: Cochrane Stroke Group Trials Registerを検索した(最終検索2003年11月)。初版では、EMBASE(1980年~1999年)、MEDLINE(1966年~1999年)、Science Citation Index(1981年~1999年)も検索した。また、抽出した試験の試験統括医師と連絡をとった。

選択基準: 急性虚血性脳卒中が確定または疑われる患者を対象として、テオフィリンまたは類似薬がプラセボまたは対照と比較されたランダム化試験。脳卒中発症から1週間以内に開始された試験を選択した。

データ収集分析: 3名のレビューアが登録基準を適用し、試験の質を評価するとともに初版でのデータを抽出した。1名のレビューアが本レビューを更新した。

主な結果: 119名の患者が含まれる2件の試験を登録し、6件の試験を除外した。試験の質は良好であった。双方ともアミノフィリンに関する試験であった。可能な場合はITT解析を実施した。早期致死率(4週間以内)にはアミノフィリン群とプラセボ群との有意差が示されなかったが、信頼区間は広がった(オッズ比[OR]1.12、95%信頼区間[CI]0.49~2.56)。早期に死亡および増悪に有意差が認められなかった(OR 0.87、95% CI 0.41~1.88)1件の試験によると、73名の患者において治療による死亡または障害の有意な低減は得られなかった(OR 0.64、95% CI 0.24~1.68)。後期死亡および障害のデータは分析に適した形態でなかった。QOLに関するデータは入手されなかった。

レビューア見解: テオフィリンあるいはその類似薬であるアミノフィリンなどが安全であり、急性虚血性脳卒中患者のアウトカムを改善に導くか否かについて評価できるほどのエビデンスは得られていない。

Citation: Bath PMW. Theophylline, aminophylline, caffeine and analogues for acute ischaemic stroke. The Cochrane Database of Systematic Reviews 2004, Issue 3. Art. No.: CD000211. DOI: 10.1002/14651858.CD000211.pub2.

Clib issue No.: 2005 issue 4

CRG名: Stroke

* **ご注意:** この日本語訳は、試験的翻訳(Draft翻訳)版として公開するものであり、翻訳の正確さや質が保証されたものではありません。訳語の間違いなどお気づきの点がございましたら、Minds事務局までご連絡下さい。また、この試験的翻訳版はコクラン・ライブラリ2005年issue 4に掲載されたレビュー・アブストラクトの翻訳です。コクラン・ライブラリは年4回改定版が発行されていますので、ご利用に際しては、最新版(英語版)の内容をご確認下さい。